



撮影地/酒田市大槻新田

現状と課題を共有しJAとともに歩む



中平田・大槻新田

組 齋藤さんからは座談会でも建設的なご意見をいただいていますね。

齋 今回もさまざまお話しします。機械作業の請負の事業を始めると、3年ほど前から聞いていましたがどうする予定でしょうか。

組 この話はJA自ら作業受託法人を作って、水田面積が広く負担になっている分を、JAが作業を請け

負うことで農地が荒れるのを防ごうという構想でしたね。

齋 機械作業だけを請け負う法人を作ることも難しいのでしょうか。高齢化に伴い、機械を新しくすることが困難になってきています。

組 採算が取れるかどうかを考えると、機械作業だけを請け負うほうが採算は取れない状況なので、とても難しいです。現在は、各地区に法人ができていますので、今はその法人を支援することを優先に、JAは補完的な役割を担っていくという方向性で進んでいます。

齋 次に、酒田ひがし支店の敷地に、農機や資材、産直などを集めて地域の拠点になれば良いのではと考えますが、そうした構想はありますか。

組 農機センターの集約をどうするかは課題になっています。中平田の施設が手狭になっているのは事実ですが、各地区の事情や建物を建てて採算が取れるかどうかという問題もあり、すぐには進められない状況です。資材については、全農の協同運営型資材店舗CAT(キャット)を導入してはどうかという考えがあります。これはJAが運営実務を担当して、全農が購買、システム、発注・在庫管理を主に担当するというもので、JAのリスクを分散する狙いがあります。ただ、資材も予約制度が充実してきているので、CATを導入した場合と比較し、よく考えて進めていかなければなりません。現在中期計画で検討中です。

齋 園芸生産拡大支援事業についてですが、私はサクランボを作っているのですが、大玉新品種の「山形C12号」を植えてみようと思いを寄せました。新たに植える分のハウスを増設しなければならないと考えていますが、品目が決まっているので利用できませんでした。やる気

があっても該当せず利用できない人もいるので、品目の幅を広くしてほしいです。

組 それも現在検討中です。もう少し枠を広げた形で園芸に取り組んでもらいたいと考えているので、中期計画に入れる予定でいます。

齋 期待しています。今「つや姫」と「雪若丸」を作っていますが、昨年のような状況になると、果たしてこのまま栽培しているのか不安に感じることがあります。自然が相手なので、営農指導だけでなんとかなることではないとわかっていますが、何か良い手立てはないものでしょうか。

組 「雪若丸」は平成30年からですが、「つや姫」は平成22年から本格栽培を始めて、9年になりましたが、県の目標をクリアしたのは28年だけでした。庄内で誕生した「つや姫」が庄内に合わないわけがないと言われていますが、県の栽培マニュアルというのが、毎年の気象変動に合うのかどうか、地域に合った栽培の仕方を模索する必要があると感じています。昨年のような気象では営農指導だけでは対応できません。地域の気象に合わせた管理が大切になるのではないかと考えています。

齋 大変重要なことです。納得いくまで検証していただきたいです。私はサクランボを作っているのですが、園芸関係、果樹関係の指導ができる人材を育成してほしいです。

組 施設園芸や果樹関係の指導が弱いというのは認めざるを得ません。シャインマスカットの人数も増えているので、今後体制を構築していく必要があります。

齋 私自身の課題でもありますが、自分たちが年齢を重ねていくので、ハウスのビニール掛けなど作業に時間がかかったり、うまく作業できなくなってきました。労働力確保のための情報提供をしてもらうことは可能でしょうか。

組 労働力不足は全国的な問題です。会議などでも議論を重ねていますが、皆さまと相談しながら真剣に取り組まなければならないことです。

齋 米だけの経営では生き残るのが難しいと感じているので、常に挑戦しながら頑張っていきたいです。

齋=齋藤 衛さん 組=阿部 茂昭組合長

齋藤 衛さん

昭和18年生まれ。水田面積は5.98ha。はえぬき1.6ha、つや姫1.3ha、雪若丸0.72haなどのほか、サクランボ15.6a、ブドウ1.6aを栽培している。園芸生産拡大支援事業を活用し、シャインマスカットも栽培。農業の他、社会福祉法人中平田協会中平田保育園理事長、中平田郷土史研究会会長など地域活動にも取り組む。

